長久手未来まちづくりビジョン

人・場・時をつなぎ
夢をはぐくむ長久手

長久手人（ながくてびと）こそ私たちの誇り

気長に手をかけ　みんなで未来を拓く

概　要　版

長久手市

２０１５

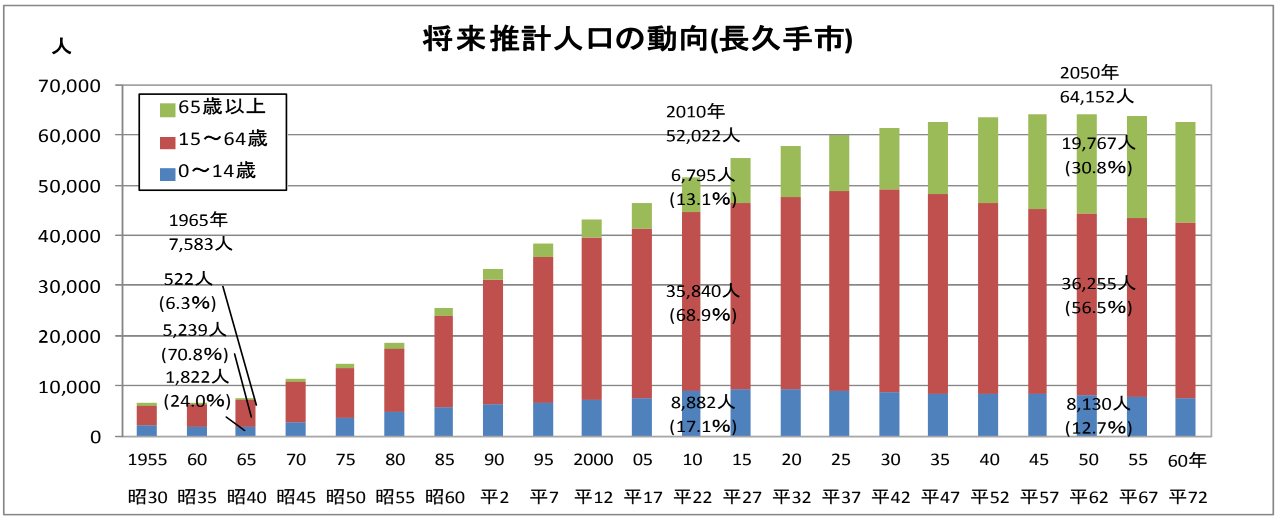
長久手未来まちづくりビジョン　概要版

長久手未来まちづくりビジョンの作成にあたって

平成62（2050）年頃の長久手市、日本はどのような生活になっているでしょうか。情報技術や人工知能の技術が格段に進歩し、直接人と会わなくても会話ができてしまうのが当たり前になっているかもしれません。その一方で、直接人と会って会話し、歴史文化に触れ、芸術を体験したりすることがより一層大切になるとも考えられます。

長久手市では、このような社会情勢や、今後の人口減少・少子高齢化社会を見据え、コンパクトなまちながら恵まれた社会資本を生かしていけるよう、平成62（2050）年という長期を目標とした「長久手未来まちづくりビジョン」を策定しました。

ビジョンの策定にあたり、学識経験者等で構成された「長久手未来まちづくり懇話会」で検討を重ねました。また、20歳代から30歳代までの若者座談会を開催し、市内中学2年生（平成26（2014）年度時点）を対象に「長久手市の将来」ついて作文を書いていただきました。



資料：国立社会保障・人口問題研究所の推計に準拠したデータ及び国勢調査を元に作成

恵まれた社会資本

長久手温泉ござらっせ

出典：長久手温泉ござらっせホームページ

愛・地球博記念公園

出典：愛・地球博記念公園ホームページ

文化の家

出典：文化の家

古戦場公園

出典：長久手市観光交流推進会議ホームページ

大学

出典：愛知県立大学ホームページ

リニモ

出典：愛知高速交通(株)ホームページ

1　平成 62（2050）年　長久手人（ながくてびと）物語

今市内に住んでいる人や働いている人、かつては市内に住んでいたり働いたりしたことがある人など、長久手市に関わりがある一人ひとりが「長久手人（ながくてびと）」。

長久手人が平成 62（2050）年にもいきいきと暮らしている姿を想像し、４つの物語をまとめました。

人をつなぐ物語

突然の転勤で長久手市に単身赴任で住むことになった人の物語。いつも気になっていた「ホームタウン（包夢多運）の家」に立ち寄ったことがきっかけで、いろんな人と知り合い、家族を呼び寄せた。

この一家は、実はシンガポール出身。世界中を移り住んできたこそ、「顔が見えるまちの安心感」がわかる。きっとここが“終の棲家”すなわちホームタウンになる。

場をつなぐ物語

市内の女子中学生と女子大学生の物語。

女子中学生は、友達と一緒に森に入って「みんなの鳥図鑑」を更新する日々を過ごしている。あるきっかけで、市内の大学で研究できることとなり、調査の方法を学んだ。

一方、女子大学生は、中学校の美術の時間に教えに行ったことがある。日々、長久手市をフィールドに作品づくりをし、海外の企業のCMで使われるチャンスをつかんだ。

「ホームタウン（包夢多運）の家」で日々バイトをしている夫妻の物語。

妻は 60 歳を超えているが、市内の充実した健康・医療サービスを活用し、夫がパートナーとなってフルマラソンに挑戦している。

夫は 70 歳を超え、長久手市生まれではない「よそ者」だけど、地域のまつりの保存会長もやっている。外国人や学生でも気軽に参加できる“伝統あるまつり”を目指している。

時をつなぐ物語

長久手市出身で、それぞれ夢を実現した人の物語。

１人は、小さい時からの夢で長久手市でレストランを開き、両親や周辺の農家が作る野菜で“地産地消のレストラン”を実現させた。

もう１人は、夫の理解を得て結婚前からの要望だった海外赴任を実現した。その間、地域で子育てを支えてもらい、今は夫妻とも子育てを支援する側になっている。

夢をはぐくむ物語

2　長久手未来まちづくり　長期ビジョン

全体テーマ

人・場・時をつなぎ　夢をはぐくむ長久手

長久手人（ながくてびと）こそ私たちの誇り　気長に手をかけ みんなで未来を拓く

４つの個別テーマ（“幸せを運ぶ”と言われている四つ葉のクローバーをモチーフ）

こんなまちにしたい！
- ●「顔の見える」まちに住みたい
- ●良好な人間関係をつくりたい
- ●まちを自分達に合うようつくり変えたい
- ●まちに誇りをもちたい
- ●ホームタウンがほしい

1 人をつなぐ／
老若男女がつながる、顔が見えるまちづくり
(1)　コンパクトなまちの中で世代を越え、地域を越えて人々がつながる。
(2)　まちに誇りを持ち、自ら行動する市民が増える。
(3)　いつでも帰ってこられるホームタウンになる。

こんなまちにしたい！
- ●子育てしやすいまちに住みたい
- ●歳をとっても安心して暮らしたい
- ●歴史文化を引き継いでいきたい
- ●終の棲家がほしい
- ●いつまでも健康でいたい

2 場をつなぐ／
地域資源を見つけ、広げて使うまちづくり
(1)　市街地の緑を増やし、丘陵地の自然を守ることにより、人々が憩える緑をつなぐ。
(2)　集積している教育・研究機能を使いこなし、地域に引きこむ。
(3)　市民の移動を容易にする空間と仕組みをつくる。

3 時をつなぐ／
歴史文化を継ぎ育て、健康福祉を通じて支えあうまちづくり
(1)　地域の歴史と文化を継承し育て、生涯を通じて学び成長する。
(2)　一人ひとりが身も心も健全であり続け、健康寿命を延ばして生涯を全うする。
(3)　人や地域の成長に合わせて皆で手間をかけ、コミュニティをつくる。

4 夢をはぐくむ／
チャレンジする人の想いを支え、希望を育てるまちづくり
(1)　誰もがいくつになっても役割を担いチャレンジできる。
(2)　若者の夢をまちぐるみで育てる。
(3)　誰でも希望を持って暮らせる。

こんなまちにしたい！
- ●自然とともに暮らしたい
- ●趣味を深めたい
- ●学びの質を高めたい
- ●質の高い芸術文化に触れたい
- ●いつでも、どこへでも行きたい

こんなまちにしたい！
- ●いつまでも人の役に立ちたい
- ●いつまでも働き続けたい
- ●世界に羽ばたきたい
- ●起業したい

1 人をつなぐ／老若男女がつながる、顔が見えるまちづくり

(1) コンパクトなまちの中で世代を越え、地域を越えて人々がつながる。	●コンパクトな市街地を形成し、「顔の見える」まちづくりを進めていきます。 ●世代や地域を越えて気軽に集まり、市や地域の様々な課題に対して共通認識を持つようにしていきます。 ●全国に発信できる全市民レベルのイベントを皆でつくりあげていきます。
(2) まちに誇りを持ち、自ら行動する市民が増える。	●まちに誇りや愛着を持ち、自慢できることが数多くあるまちにしていきます。 ●まちの一員として当事者意識を持ち、自ら行動を起こす市民を増やしていきます。 ●長久手市の様々な計画の策定する際には、策定プロセスの中で市民が主体となって計画を作っていきます。
(3) いつでも帰ってこられるホームタウンになる。	●長久手市から一旦市外に出て行っても、帰ってきたいと思えるホームタウンにしていきます。 ●住民同士が交流を深められる環境づくりを進め、温かく送り出し迎え入れるホームタウンにしていきます。

2 場をつなぐ／地域資源を見つけ、広げて使うまちづくり

(1) 市街地の緑を増やし、丘陵地の自然を守ることにより、人々が憩える緑をつなぐ。	●市街地で緑を増やし、丘陵地の自然を守り育て、市内全域で人々が憩える緑の空間を広げてつないでいきます。 ●多様な生物が共生できるビオトープ・ネットワーク*1 を形成します。 ●都会的発展をし過ぎないように、都市と自然のバランスの取れたまちを目指していきます。
(2) 集積している教育・研究機能を使いこなし、地域に引きこむ。	●大学や研究施設の集積を生かし、機能や空間を使いこなすとともに、アウトリーチ活動*2 により、市民と連携できる環境を整えていきます。 ●大学や研究施設、文化芸術・スポーツのなどの拠点も市民が使いこなし、それらのアウトリーチ活動を地域に引き込んでいきます。
(3) 市民の移動を容易にする空間と仕組みをつくる。	●自家用車を使わず、様々な手段による移動ができるよう道路等の空間づくり、仕組みづくりを進めていきます。 ●遊歩道等の整備を進め、車を心配せずに通行でき、遊べ、憩える多目的な空間づくりを目指していきます。

＊1 「ビオトープ・ネットワーク」とは、森林、河川、公園、街路樹など多様な生物の生息場所をつなぐ取組のこと。

＊2 「アウトリーチ活動」とは、大学や研究機関の教員や学生、研究者などが研究活動への関心を高めるため、自ら地域に出て活動すること。

3 時をつなぐ／歴史文化を継ぎ育て、健康福祉を通じて支えあうまちづくり

(1) 地域の歴史と文化を継承し育て、生涯を通じて学び成長する。	●地域の歴史や文化などを子どもの頃から学び、地域の人々とふれあう学習を積極的に導入していきます。 ●伝統的な祭りの伝承や歴史文化の継承に向けて、子ども、大人、高齢者が役割を担って参加し続けていきます。 ●新たな市民も参加し、時代の変化も受け入れて歴史や文化を育てていきます。
(2) 一人ひとりが身も心も健全であり続け、健康寿命を延ばして生涯を全うする。	●いつでもどこでも様々な運動ができる場を整備し、運動をサポートしていく体制をつくっていきます。 ●市民一人ひとりが役割を持ち、コミュニケーションをとれるようサポートしていく体制をつくっていきます。
(3) 人や地域の成長に合わせて皆で手間をかけ、コミュニティをつくる。	●人や家族の成長変化に合わせて、皆で手間をかけ、地域で支えあうコミュニティをつくっていきます。 ●地域での見守りと良好な人間関係の両方の機能を持ったコミュニティづくりを目指していきます。

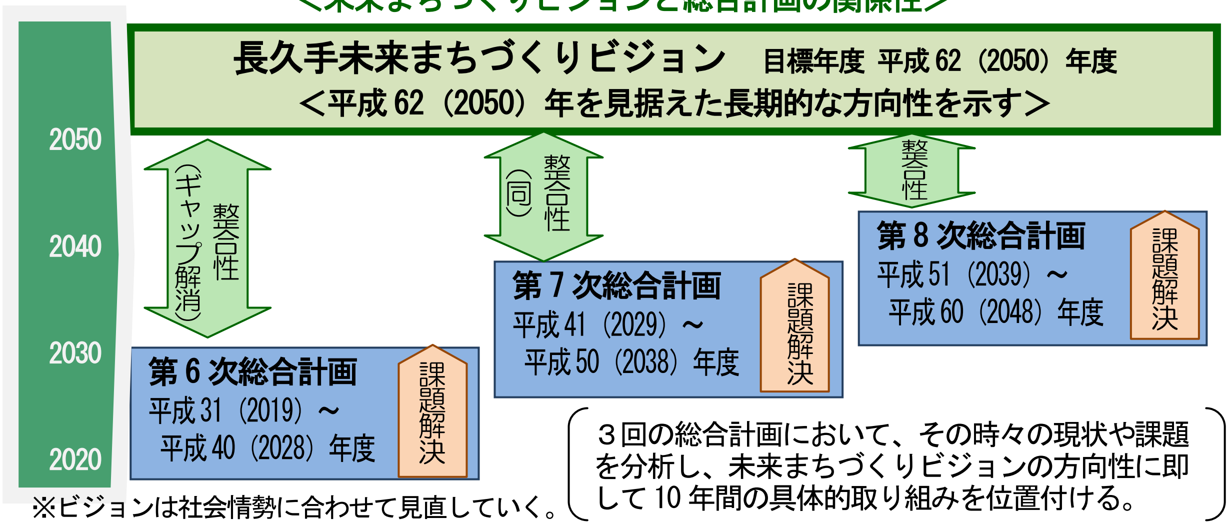
4 夢をはぐくむ／チャレンジする人の想いを支え、希望を育てるまちづくり

(1) 誰もがいくつになっても役割を担いチャレンジできる。	●いくつになっても地域コミュニティの中で役割があり、生きがいを持ち暮らしていけるようにしていきます。 ●いくつになっても働くことのできる多様な場があるようにしていきます。
(2) 若者の夢をまちぐるみで育てる。	●意欲があり起業を望んでいる若者に対し、その起業を支援する仕組みをつくっていきます。 ●長久手市に住み続けながら、世界とつながって仕事をする人をまちぐるみで応援していきます。
(3) 誰でも希望を持って暮らせる。	●誰でも希望が持てるよう、学校教育を通じて子どもの時から育み、大人も地域ぐるみで支援していきます。 ●悩みや生きづらさを抱えている人々に対し、地域の人が寄り添って支えていきます。

3　これからの展開

この未来まちづくりビジョンを実現するため、具体的な施策は今後策定する長久手市総合計画の中で反映させていきます。

<未来まちづくりビジョンと総合計画の関係性>



総合計画とは・・・

総合計画は、市の最上位計画として位置づけられています。長久手市では、これまで第１次から第５次の５回にわたって総合計画を策定しています。現行の第５次総合計画では、平成21～30（2009～2018）年度までの10年間を計画期間とし、まちの将来像やまちづくり基本方針、具体的な施策を定めています。

第５次総合計画

長久手未来まちづくり懇話会の概要

懇話会等のスケジュール
（平成27（2015）年1月～7月実施）

日　時	内容
第１回懇話会 1月15日（木）	長久手を取り巻く社会情勢と将来
第２回懇話会 2月20日（金）	将来課題の抽出
3月　1日（日）	若者座談会
第３回懇話会 3月30日（月）	テーマ設定
第４回懇話会 4月17日（金）	テーマ設定
第５回懇話会 5月14日（木）	テーマ検討（分科会方式）
第６回懇話会 6月26日（金）	長期ビジョン素案の検討
第７回懇話会 7月31日（金）	長期ビジョンの検討

懇話会委員

氏　名	所属・役職
植松　良太	トヨタ自動車㈱　総務部　管財・渉外室長
大庭　卓也	㈱CBCテレビ　調査役　兼　㈱CBCビップス代表取締役社長
加藤　義郎	長久手市商工会　顧問 （平成27（2015）年5月31日まで、会長）
川合　保生	長久手市議会　議員 （平成27（2015）年4月30日まで、議長）
久保田　健一	ユニー㈱　開発本部　企画部　シニアマネジャー （平成27（2015）年2月20日まで、開発本部店舗開発部中京西開発担当部長）
小林　英雄	長久手市政策アドバイザー　元東海銀行専務取締役
近藤　鋭雄	あいち尾東農業協同組合　長久手地域総括理事
佐藤　啓二	愛知医科大学　学長
下﨑　一洋	日東工業㈱　経営管理本部　経理部長 （平成27（2015）年2月28日まで、経営管理本部　総務部長）
髙栁　友子	社会福祉法人　日本介助犬協会　事務局長
谷沢　明	愛知淑徳大学　交流文化学部長
細川　修	愛知県立芸術大学　名誉教授 （平成27（2015）年3月31日まで、美術学部長）
望月　彰	愛知県立大学　教育福祉学部長
吉田　一平	長久手市長

コーディネーター

井澤　知旦	名古屋学院大学　現代社会学部　教授 （平成27（2015）年3月31日まで、経済学部　教授）

長久手未来まちづくりビジョン

概要版

人・場・時をつなぎ 夢をはぐくむ長久手

長久手人こそ私たちの誇り
気長に手をかけ みんなで未来を拓く

平成 27（2015）年 10 月
発行　　長久手市
編集　　市長公室政策秘書課